（公財）中央果実協会
No.427

ウズベキスタン　マイヤーレモンを日本に初出荷

FreshPlaza　2025年3月4日

EastFruit（ウクライナの情報サイト）のチームは、ウズベキスタンの企業であるフルーツヴォヤージュ社が、ウズベキスタン産生鮮マイヤーレモンの初の日本向け商業出荷を行ったと報告している。2025年2月に最初の荷が届けられたことで、1つの節目となった。同社は、ウズベキスタン・フェルガナ州のクバ地区に拠点を置くエクシムアグログループの一部である。

ウズベキスタンがその独特の外観と味で知られるマイヤーレモンに注力していることから、この輸出が促進された。日本市場は、ユニークでニッチな果実に関心があることで知られており、ウズベキスタンの生産者にチャンスを提供している。

日本市場への参入は、その厳しい品質・安全基準のために困難を伴った。日本の輸入業者は通常、新しい取引相手に慎重な対応を行うため、この最初の出荷は特筆すべき出来事である。

この出荷は試験的なものであり、空輸で実施された。同社は、将来の協力関係を維持するために、パッケージングを強化し、新しい物流ソリューションを模索することとしている。同社は現在さらに、ウズベキスタン産のレモン、メロン、種なしブドウ、ザクロ、カキの日本への輸出について交渉している。

マイヤーレモンは、中国原産と考えられている天然の交雑種で、マイルドで甘い味が通常のレモンとは異なる。1908年に中国でこのレモンを目にしたフランク・ニコラス・マイヤー氏によって西洋社会に紹介された。マイヤーレモンは果皮が薄く、カンキツトリステザウイルス（CTV）に感染するため、その独特の風味にもかかわらず、商業的な栽培には制約がある。

1950年代にカリフォルニア大学がウイルスフリー株の「改良型マイヤーレモン」を開発し、この品種への関心を復活させた。特に12月から3月までの旬の時期に料理に使用することで、シェフや家庭で料理をする人々の間で人気を得た。

日本は、主に米国とニュージーランドから年間7万5千トン以上の生鮮レモンを輸入している。マイヤーレモンを含め代替供給源への需要は高まっている。フルーツヴォヤージュ社は、ウズベキスタンがその農業面での気候条件を活かして、日本にとって信頼できる供給国になる可能性を見出している。

ウズベキスタンは2023年に12万トン以上のレモンを収穫したが、輸出されたのはそのうち約4%にとどまった。マイヤーレモンは、その独特の特性により主要な輸出品となり、ウズベキスタンを世界のレモン市場におけるユニークな参加者の地位に付ける可能性がある。

出典: EastFruit

（翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。）